

授業改善推進プラン < 技術・家庭 >

(技術・家庭) 科における令和6年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ ICT機器を活用することで、前時の学習内容を短時間で確認すると共に、作業内容を分かりやすく伝えることに効果的であった。
- ・ 家庭や地域社会との連携においては、ものづくり教育・学習フォーラムや区展、都展に作品を展示することで、日頃の実践的体験学習の様子を伝えることができた。
- ・ すべての題材に意欲をもたせることや、見通しを立てて最後まで取り組む姿勢を育てていくことが課題である。

(技術・家庭) 科における調査結果の分析

分野別結果の分析	<p>○技術分野に関して</p> <p>実習に対して意欲的に取り組む生徒が多いが、ものづくりの経験が少なく作業の見通しをもつことが難しい生徒もいる。習熟度に大きな差が生じないよう書画カメラや動画等を活用して視覚的な教材を使用するなどの配慮が必要。</p> <p>○家庭分野に関して</p> <p>どの題材にも熱心に取り組もうとする姿勢ができてきているが、最後までその意欲を継続できない生徒もいる。また、学んだことを生活に生かせるよう実践的、体験的な学習する機会をこれまで以上に設ける必要がある。</p>
観点別結果の分析	<p>○「知識・技能」について、定着した知識を身につけるまでには至っていないので反復学習の必要がある。また、基礎的な技能は身につけてきているが、生活に活用する力は不十分である。</p> <p>○「思考・判断・表現力」について、ものづくりでは作品を工夫しようとする力は育ってきているが、生活を工夫し生かしていくまでには至っていない。</p> <p>○「主体的に取り組む態度」について、個人差はあるが全体的に意欲は高い。学習意欲を喚起するために、3学年の実技の授業で少人数授業を取り入れたことは効果的であった。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「主体的・対話的で深い学び」になる学習展開の工夫
- ・ICTを活用した分かりやすい授業の工夫

(技術・家庭) 科の授業改善策

- ・学習したことを、生活に生かせるよう主体的・対話的な学習を増やしていきながら、自分の生活を見つめる時間を確保していく。
- ・各題材で持続可能社会の構築がめざせるよう、技術と社会・環境とのかかわりに関連づけながら授業展開をしていく。
- ・題材により知識の定着に差があることから反復学習ができるようにすることと、自ら学習の振り返りが出来るようにする。そして、より効果的に生徒自身がICT機器を活用する授業を行っていきたい。